

第 6 回 世界環境サミット

公式開催記録

The 6th World Environment Summit
Official Record

戦争・紛争・分断を超え、
環境と平和を未来へつなぐ国際対話

開催日：2026 年 6 月 24 日・25 日

主催：世界環境サミット実行委員会

発行：世界環境サミット実行委員会

目次

はじめに

01 | 開催趣旨

02 | 世界環境サミットの歩み

03 | 世界環境サミットが掲げる理念

04 | 第6回開催テーマ

05 | 主な開催内容

06 | 第6回世界環境サミット 声明文

07 | 登壇者紹介

08 | 本サミットが生み出した価値

09 | 今後の展望

10 | 第6回から、第7回へ

11 | 運営・協力体制

12 | 対話と共創の記録

13 | 結びに

奥付

はじめに

第6回世界環境サミットは、環境問題を単なる自然環境の課題としてではなく、平和、外交、経済、教育、医療、技術、文化と深く結びついた人類共通の課題として捉え直す場として開催されました。

世界環境サミットが掲げる理念は、「世界中に自然と調和した心豊かな環境文化を創造する」ことです。

ここでいう環境とは、自然環境だけを指すものではありません。社会環境、そして一人ひとりの心の環境を含む、より広い意味での環境を指しています。

今回のテーマは、「戦争や紛争は環境破壊の最大要因——分断を超えたパラダイムシフトへ」。

世界各地で続く戦争や紛争、地政学的緊張、経済不安、価値観の分断は、人々の暮らしだけでなく、森林、海洋、大気、土壌、生態系にも大きな影響を及ぼしています。

環境を守ることは、自然を守ることにとどまりません。それは、人と人、国と国、世代と世代がどのようにつながり、どのような未来を選び取るのかを問い直すことでもあります。

本サミットでは、外交、環境、医療、AI、エネルギー、宇宙、教育、文化など、多様な分野の登壇者が集い、それぞれの知見と経験を持ち寄りながら、持続可能な未来に向けた対話を行いました。

また、第6回となる今回は、世界環境サミットとして初めて声明文を発表しました。これは、世界環境サミットが一日限りの開催行事にとどまらず、環境と平和を結ぶ国際的な対話の場として、次なる行動へつながる意思を示す新たな一歩となりました。

本記録は、第6回世界環境サミットで交わされた対話、共有された視点、登壇者の皆様から寄せられたメッセージ、そして今後へつながる歩みを記録するものです。

01 | 開催趣旨

環境問題は、もはや一つの国、一つの地域、一つの産業だけで解決できる課題ではありません。

気候変動、資源問題、自然破壊、生態系の変化は、世界中の人々の暮らし、経済、健康、教育、文化、そして平和と深く結びついています。

特に、戦争や紛争は、人命を奪うだけでなく、都市、森林、農地、河川、海洋、大気、生態系にも大きな影響を及ぼします。さらに、避難、貧困、食料不安、経済格差を生み出し、環境問題をより複雑なものにしていきます。

環境を守るためには、平和について考える必要があります。平和を築くためには、対話が必要です。対話を生み出すためには、分断を超える視点が必要です。

第 6 回世界環境サミットは、そのような問題意識のもと、環境と平和を結ぶ国際対話の場として開催されました。

本サミットでは、「分断ではなく対話」「対立ではなく共創」という理念を大切にしながら、多様な分野の知見を持ち寄り、持続可能な未来に向けた新たな視点を共有しました。

02 | 世界環境サミットの歩み

世界環境サミットは、2020 年、新型コロナウイルス感染症による行動制限により、経済活動、生産活動、そして人とのつながりが大きく制限された時代の中で立ち上がりました。

人・もの・ことの流れが止まり、社会全体が閉塞感に包まれる中で、企業、団体、個人が集まり、世界環境サミット実行委員会が結成されました。

当初は、外出自粛が求められる中、企業や団体の発信、そして人と人とのつながりを少しでも促進するため、オンラインでの開催から始まりました。

その後、世界環境サミットはオンラインとリアルの双方を活用しながら、環境問題を中心に、外交、経済、教育、医療、文化、科学技術など、多様な領域を横断する対話の場として歩みを重ねてまいりました。

これまでに、世界 30 カ国から視聴され、HP と YouTube を合わせて累計 17 万 PV を記録しています。また、各国大使、外交関係者、政治家、研究者、企業、文化人をはじめ、多くの方々にご参加いただき、日本から世界へ向けた国際的な対話の場を創り続けてまいりました。

世界環境サミットは、持続可能な社会の実現に取り組む企業・団体を応援するとともに、持続可能な社会の実現に向けて、世界中の人々が発信し、つながり合う場を目指しています。

03 | 世界環境サミットが掲げる理念

世界環境サミットの理念は、「世界中に自然と調和した心豊かな環境文化を創造する」ことです。

世界環境サミットが考える環境とは、自然環境だけではなく、社会環境、そして一人ひとりの心の環境を含むものです。

自然と人間が調和することは、これからの地球に求められる重要な柱です。人類や経済の発展も、環境改善を軸に据えながら進められていく必要があります。

ただし、それは一面的な環境改善だけを追求するものではありません。人々の暮らしの快適さ、心の豊かさ、Well-Being も含めて、多面的・多角的に考えていくことが大切です。

世界環境サミットは、世界中の人々が言葉、国境、人種、政治、経済、宗教、国益を超えてつながり合い、持続可能な未来に向けて対話し、発信する場であり続けます。

04 | 第6回開催テーマ

戦争や紛争は環境破壊の最大要因 ―分断を超えたパラダイムシフトへ―

第6回世界環境サミットでは、「戦争や紛争は環境破壊の最大要因―分断を超えたパラダイムシフトへ」を開催テーマに掲げました。

環境問題は、気候変動や資源問題、自然破壊だけで語り尽くせるものではありません。

戦争や紛争、地政学的な対立、経済格差、価値観の分断は、人間社会に深い傷を残すだけでなく、自然環境にも大きな影響を及ぼします。

だからこそ、環境問題を真に考えるためには、平和、外交、教育、医療、経済、技術、文化といった多様な視点を結びつける必要があります。

本サミットでは、環境と平和を切り離さずに考え、分断を超えた新たな対話と共創の可能性を探りました。

05 | 主な開催内容

第6回世界環境サミットでは、「戦争や紛争は環境破壊の最大要因——分断を超えたパラダイムシフトへ」をテーマに、環境と平和をめぐる国際対話を行いました。

本サミットでは、環境問題を自然環境だけの課題として扱うのではなく、平和、外交、経済、教育、医療、技術、文化、地域社会と深く結びつく人類共通の課題として捉え、多様な立場から意見と知見を共有しました。

05-1. 世界環境サミット初となる声明文の発表

第6回世界環境サミットでは、世界環境サミットとして初めて、環境と平和をテーマとした声明文を発表しました。

本声明文は、環境問題を技術や制度だけの課題として捉えるのではなく、平和、対話、国際協力、人間社会のあり方と結びついた課題として考える姿勢を示すものです。

今回の声明文発表は、世界環境サミットがその日限りの開催行事にとどまらず、継続的な対話と行動を生み出す国際的な場として、新たな一步を踏み出したことを示す重要な節目となりました。

05-2. 外交・国際社会からのメッセージ

本サミットには、駐日大使、大臣、副大使をはじめとする国際社会の関係者から、特別講演やビデオメッセージをいただきました。

外交の現場で培われた経験や、各国が直面する環境・平和・気候変動に関する視点を通じて、環境課題は一国のみで解決できるものではなく、国境を越えた対話と協力が必要であることが改めて共有されました。

05-3. 国政・専門分野を横断する対話

国政からの視点に加え、環境、医療、AI、エネルギー、宇宙、教育、文化、宗教、国際法、地域創生、資源循環など、多様な分野で活動する登壇者が集いました。

それぞれの専門領域は異なりますが、持続可能な未来を実現するためには、分野ごとの取り組みをつなぎ、相互に学び合う視点が欠かせません。

本サミットでは、異なる知見が交差することで、環境と平和を起点にした新たな連携、地域実装、社会課題の解決に向けた可能性が共有されました。

05-4. 対話から、次の共創へ

本サミットは、講演や発信を行うだけの場ではありません。

登壇者、参加者、関係者がそれぞれの立場を越えて出会い、対話し、次の連携を考える場として開催されました。

今回生まれた対話とつながりは、今後、国際連携、地域での実践、技術や事業の社会実装へと育てられていくことが期待されます。

次頁では、第6回世界環境サミットにご登壇・ご協力いただいた皆様をご紹介します。

06 | 第6回世界環境サミット 声明文

環境と平和を未来へつなぐための基本合意声明

2026年6月24日、世界環境サミット、そして本会議に集う全ての同志の総意に基づき、全人類と地球の未来に向けた基本合意声明をここに宣言する。

【基本理念】

「戦争は、環境破壊の最大級の人災である」

いかなる大義名分があろうとも、武力による争いは尊い人命を奪い、人権を深く傷つけ、我々の生存基盤である母なる地球の環境を、回復困難なまでに破壊する行為に他ならない。

しかし、それが人間によって引き起こされた「人災」であるならば、我々人類自身の「手」と「意志」、そして他者を慈しむ「徳」の精神によって、必ず止めることができる。

我々は、この真理を国際社会における共通の認識とし、以下の三項目を世界への力強いメッセージとして発信する。

【三つの誓いと提言】

一、戦争の即時停止と、平和的対話への完全移行

我々は、現在世界中で起きているあらゆる武力衝突の「即時停止」を強く求める。力による現状変更や報復の連鎖は、いかなる問題の解決にも至らない。対話と協調による平和的解決へと直ちに舵を切るべきである。

二、人命と人権の最優先事項化

国家の利益やイデオロギーよりも、地球上に生きる一人ひとりの「命の尊厳」と「基本的人権」が最優先に守られる世界を構築する。真の持続可能性は、全ての人々が恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生きる権利を保障することから始まる。

三、武器と資源の「奪い合い」からの脱却と、共有・共創の文明へ

有限な地球資源やエネルギーを巡る覇権争い、およびそれを武力で制するための武器の増産・拡散を直ちに終結させる。人類は今こそ、資源を「奪い合う」古い枠組みから脱却し、叡智とテクノロジーを結集して環境と調和しながら、「分かち合い、共に創る」新たな文明体系へと進化しなければならない。

【結び】

本声明は、単なる理想論ではなく、人類がこの地球上で存続するための「絶対的な前提条件」である。

我々は、第6回世界環境サミットの間からこのメッセージを全世界の指導者および市民に向けて発信し、生命の尊厳と地球環境を守り抜くための具体的な行動を共に起こすことを誓う。

2026年6月24日
第6回世界環境サミット
平井 正昭

07 | 登壇者紹介

第 6 回世界環境サミットでは、外交、環境、医療、AI、エネルギー、宇宙、教育、文化など、多様な分野で活動する登壇者の皆様にご参加いただきました。

それぞれの登壇は、単なる専門知識の共有にとどまらず、環境と平和をどのように未来へつなげていくかを考える貴重な機会となりました。

登壇者一覧

本サミットには、以下の皆様にご登壇、ビデオメッセージをいただきました。

登壇者名	肩書・所属	登壇テーマ・分野
Manlio Cadelo 様	駐日サンマリノ共和国大使／元外交団長	特別講演／平和・外交・国際協力
Abdul Awal Mintoo 様	バングラデシュ人民共和国 環境担当大臣	ビデオメッセージ／環境・国際協力
玉木 雄一郎 様	衆議院議員 国民民主党代表	環境政策、AI
石井 苗子 様	参議院議員 日本維新の会	環境政策、防災政策
チンギス・アヤンガット 様	ゲルリン・ウルグ 創設者	国際連携（ビデオメッセージ）
行徳 哲男 様	日本 BE 研究所 所長	ビデオメッセージ／人材育成・教育・日本精神
王 建剛 様	Global City Connect CEO	国際ビジネス・国際連携
王 懷東 様	Global City Connect Japan CEO	国際連携・企業連携・
Humayun A. Mughal 様	国際ジャーナリスト	国際情勢・宗教・平和
小坂 達也 様	匠プロモーション株式会社 代表取締役	宗教、平和、日本文化
本間 義幸 様	一般社団法人 日本伝統大麻奉納会 代表理事	宗教、平和、
市岡 元気 様	株式会社 GENKI LABO 代表取締役	科学、教育
Richard Hideki Kaszynski, M.D., Ph.D. 様	SENSHIN CLINIC 医師・研究者	医療・再生医療・健康
Nodirbek Khoshimov 様	駐日ウズベキスタン共和国 副大使	外交・国際協力
Anup Somadder 様	国際弁護士	環境・国際法・国際協力
綿貫 雅一 様	一般社団法人グローバル・イニシアティブ協会 代表理事	地域創生・国際協力
八重樫 恵介 様	G ホールディングス株式会社 代表取締役	環境技術・資源循環・社会実装
松井 大之 様	Refarm 代表	農業・地域創生・循環型社会
真道 吉広 様	株式会社ジメント／NPO 法人モクラボ九州人 理事	地域活性化・まちづくり、環境住居
梶山 敢司 様	ステムリンク株式会社 統括部長	再生医療、次世代培養技術

清田 彩 様	The Crown of Japan 国際ミスコンテストディレクター	文化・国際交流・女性活躍
中村 怜良 様	エナジーアール株式会社 CEO	エネルギー・脱炭素・GX
杉原 海 様	株式会社 The Bedrock Space Group CEO	宇宙開発・宇宙ビジネス・エネルギー
松尾 さおり 様	株式会社 Radiance 代表取締役	ビデオメッセージ／環境技術・資源循環

※掲載内容は、登壇時点の情報に基づいています。

08 | 本サミットが生み出した価値

第 6 回世界環境サミットは、環境問題を自然環境だけの課題として捉えるのではなく、平和、外交、経済、教育、医療、技術、文化、地域社会と結びついた人類共通の課題として見つめ直す場となりました。

今回の開催を通じて生まれた価値は、大きく四つあります。

08-1. 環境と平和を結ぶ新たな共通認識を創出

戦争や紛争、分断、経済格差、価値観の対立は、人々の暮らしや社会の安定だけでなく、自然環境や地域の持続可能性にも深い影響を及ぼします。

本サミットでは、環境を守ることと平和を築くことは切り離せないという視点を、外交、政治、医療、科学、教育、文化、企業活動など、多様な立場から共有しました。

08-2. 国家・外交・企業・研究・地域を横断する国際対話の接点を創出

大使、大臣、副大使、国会議員、研究者、企業経営者、専門家、文化関係者など、多様な分野で活動する登壇者が集い、それぞれの知見と経験を持ち寄りました。

異なる立場や専門性が交わることで、一つの組織や一つの国だけでは見出しにくい課題や可能性が可視化され、国際連携、地域実装、新たな事業創出へ向けた対話の土台が生まれました。

08-3. 世界環境サミット初の声明文発表による、継続的な国際発信基盤の創出

今回発表した声明文は、環境を技術や制度だけの課題として扱うのではなく、平和、対話、国際協力、人間社会のあり方と結びついたテーマとして捉える姿勢を示すものです。

これは、第 6 回世界環境サミットが、その日限りの開催行事にとどまらず、環境と平和を未来へつなぐ国際的な対話の場として、新たな歩みを始めたことを示す重要な成果となりました。

08-4. 第 7 回世界環境サミットと、その先の共創プロジェクトへつながる“共創の種”の創出

本サミットで交わされた対話や出会いは、その場で完結するものではありません。

各国関係者、企業、大学、研究機関、教育機関、地域社会とのつながりを通じて、環境技術、地域づくり、教育、文化交流、医療、国際協力など、多様な分野で新たな連携の可能性が生まれています。

第 6 回世界環境サミットは、これまでの歩みを受け継ぎながら、対話を次の行動へとつなげる新たな起点となりました。

09 | 今後の展望

第6回世界環境サミットで生まれた声明、国際対話、分野を越えたつながりを、一過性の成果で終わらず、継続的な国際連携と具体的な社会実装へ育てていくことが、今後の世界環境サミットの役割です。

今後は、三つの方向性を中心に活動を進めてまいります。

09-1. 発信

第6回世界環境サミットで発表した声明文や、登壇者の皆様から共有された知見を、国内外へ広く発信してまいります。

環境と平和を結ぶ視点を、企業、教育機関、研究機関、行政関係者、市民社会、そして次世代を担う子どもたちへ届けることで、より多くの人々が未来について考え、行動するきっかけをつくります。

09-2. 連携

各国大使館、国際的な関係機関、企業、大学、研究機関、教育機関、地域社会との対話を継続し、具体的な協力関係の構築を進めてまいります。

環境技術、資源循環、地域づくり、教育、医療、文化交流、海外展開など、多様な分野において、世界環境サミットを起点とした国際連携と地域実装の可能性を広げていきます。

09-3. 次世代と社会実装

環境問題と平和の重要性を、次世代へどのように伝え、社会の中でどのように形にしていくか。これは、世界環境サミットが今後さらに重視していくテーマです。

企業や研究機関、地域、教育現場との共同プロジェクトを通じて、対話から行動へ、理念から実践へと歩みを進めてまいります。

世界環境サミットは、環境を共通言語として、国境、立場、分野を越えた人と人のつながりを育み、持続可能な未来に向けた新たな協働を生み出してまいります。

10 | 第6回から、第7回へ

第6回世界環境サミットは、環境と平和をめぐる対話を共有する場であると同時に、次の連携と実装を始める場となりました。

ここで生まれた声明、国際的な対話、分野を越えた出会いは、これから地域、企業、教育、技術、文化、医療など、それぞれの現場で具体的な取り組みへと育てられていきます。

世界環境サミットが目指すのは、特定の国や組織、立場のためだけの場ではありません。

環境を共通言語に、国境や利権、専門分野の壁を越え、多様な人々が対話し、つながり、未来に必要な仕組みやプロジェクトを共につくる、開かれた国際連携の場です。

第7回世界環境サミットでは、第6回で生まれたつながりをさらに深め、国際連携、地域実装、新たな事業創出へとつながる具体的な共創を進めてまいります。

対話を、行動へ。

共創を、世界の実装へ。

世界環境サミットは、環境と平和を未来へつなぐ歩みを、これからも続けてまいります。

11 | 運営・協力体制

第6回世界環境サミットは、登壇者や協力団体だけでなく、多様な世代と地域の人々の参画によって実現しました。

運営には、高校生、大学生、社会人、経営者まで、さまざまな立場のボランティアメンバーが参加しました。開催地である東京都内にとどまらず、複数の都道府県から集まったメンバーが、それぞれの経験や役割を持ち寄り、受付、会場設営、登壇者対応、進行、記録、参加者対応、広報などを担いました。

環境や平和の課題は、特定の世代、地域、専門家だけで解決できるものではありません。

だからこそ本サミットでは、年齢、職業、肩書、地域を越え、多様な人々が同じ目的のもとに集い、それぞれができる役割を担う運営のあり方そのものを大切にしました。

この運営体制は、世界環境サミットが掲げる「分断ではなく対話」「対立ではなく共創」という理念を、開催の現場で形にしたものです。

世界環境サミットは、講演や発表だけで完結する場ではありません。

登壇者、参加者、運営メンバー、協力者一人ひとりが、それぞれの役割と想いをもち寄ることで、対話が生まれ、つながりが育ち、次の共創へ向かう土台がつくられています。

第6回世界環境サミットは、多様な人々が共に運営し、共に支えたからこそ、環境と平和を未来へつなぐ国際対話の場として成立しました。

12 | 対話と共創の記録 – 第6回世界環境サミットの軌跡 –

第6回世界環境サミットでは、登壇、声明文の発表、国際的なメッセージ、参加者同士の交流、世代や立場を越えた協働など、多くの対話と共創の瞬間が生まれました。

ここに収めた写真は、単なる開催記録ではありません。

異なる国、地域、世代、専門分野から集まった人々が、環境と平和という共通のテーマのもとに向き合い、言葉を交わし、未来に向けた新たな可能性を見出していった記録です。

登壇者の発信、参加者の真剣なまなざし、会場に生まれた交流、運営メンバーによる支え合い。その一つひとつが、第6回世界環境サミットを形づくりました。

この場で生まれた出会いと対話が、国際連携、地域実装、新たな事業、そして次世代へ向けた取り組みへとつながっていくことを願っています。



Ceremony | 環境と平和への祈り

自然への敬意と平和への願いを重ね、未来へ思いを託す時間。



Voices | 多様な立場からの発信 | 1/4

外交、政治、企業、研究、文化—それぞれの視点から、持続可能な未来を語る（順不同）。



Voices | 多様な立場からの発信 | 2/4



Voices | 多様な立場からの発信 | 3/4



Voices | 多様な立場からの発信 | 4/4



Dialogue | 立場を越えて交わる対話

異なる経験と考えが交差し、新たな理解と共創の可能性が生まれる。



Connection | 共に立つ、次の共創へ | 1/2

この出会いを一過性で終わらせず、次の行動と国際的な共創へつなげていく。



Connection | 共に立つ、次の共創へ | 2/2



13 | 結びに – 未来への対話を、これからも –

第6回世界環境サミットにご来場、ご登壇、ご協力いただいたすべての皆様へ、心より御礼申し上げます。

本サミットは、環境を自然環境だけの課題として捉えるのではなく、平和、外交、経済、教育、医療、技術、文化、地域社会と結びつく、人類共通の課題として見つめ直す場となりました。

大使、大臣、副大使、国会議員、研究者、企業経営者、専門家、文化関係者、そして多様な世代の参加者と運営メンバーが、それぞれの立場を越えて集い、環境と平和の未来について対話を重ねることができました。

第6回では、世界環境サミットとして初めて声明文を発表し、対話を継続的な行動へつなげていくための新たな一歩を踏み出しました。

ここで生まれた気づき、出会い、つながりが、国際連携、地域での実践、新たな事業、次世代への取り組みへと育っていくことを願っています。

世界環境サミットは、分断ではなく対話を、対立ではなく共創を大切にしながら、環境と平和を未来へつなぐ国際的な場を育んでまいります。

今後とも、世界環境サミットへのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

世界環境サミット実行委員会

奥付

World Environment Summit

参加・連携のご案内／お問い合わせ

■発行情報

第 6 回 世界環境サミット 公式開催記録

The 6th World Environment Summit Official Record

発行：世界環境サミット実行委員会

発行日：2026 年 7 月 5 日

所在地

〒107-0061 東京都港区北青山一丁目 3 番 1 号アールキューブ青山 3 階
3F R-Cube Aoyama,1-3-1 Kita-Aoyama, Minato-ku,Tokyo 107-0061, Japan

代表窓口

worldenvironmentsummit@g-holdings.info

■THE 7TH WORLD ENVIRONMENT SUMMIT 第 7 回世界環境サミットに向けて

第 7 回世界環境サミットでは、第 6 回で生まれた国際対話と共創のつながりをさらに深め、国際連携、地域実装、新たな事業創出へつながる具体的な取り組みを進めてまいります。

登壇・発信をご希望の方

- ・講演、パネル登壇をご希望の方
- ・ビデオメッセージでのご参加をご希望の方
- ・自国・地域・企業・団体の環境に関する取り組みを発信したい方

協賛・協力をご検討の方

- ・協賛、共催、協力をご検討の企業・団体
- ・環境、平和、教育、国際連携の取り組みを支援したい方
- ・次世代育成や地域貢献につながる活動を共に進めたい方

国際・行政・研究連携をご希望の方

- ・各国大使館、行政機関、国際機関の皆様
- ・大学、教育機関、研究機関の皆様
- ・地域と世界をつなぐ取り組みをお持ちの皆様

共創プロジェクトをご提案の方

- ・環境技術、資源循環、地域づくり
- ・教育、医療、文化、宇宙、エネルギー
- ・海外展開、国際連携、社会実装
- ・新たな事業や共同プロジェクトのご提案

第 7 回世界環境サミットに関するお問い合わせ

worldenvironmentsummit@g-holdings.info

・PRESS | 報道・メディア関係者の皆様へ

取材・広報に関するお問い合わせ

世界環境サミットでは、開催内容、登壇者への取材、国際連携、環境技術、地域実装に関する取り組みについて、報道・メディア関係者の皆様からのお問い合わせを受け付けています。

以下のご相談に対応しています。

- ・取材・掲載・出演のご依頼
- ・登壇者、実行委員会への取材相談
- ・写真・映像素材の利用
- ・声明文、開催記録に関するお問い合わせ
- ・世界環境サミットの活動に関する広報連携

お問い合わせ

worldenvironmentsummit@g-holdings.info



世界環境サミットは、環境を共通言語に、国境、立場、世代、専門分野を越えた対話と共創を育み、持続可能な未来に向けた国際連携の場を創り続けます。

公式 HP | <https://www.worldenvironmentsummit.com/>

本書の内容の改変、編集、再構成、または趣旨を損なう形での二次利用は固く禁じます。掲載・引用の際は、出典として「第6回世界環境サミット 公式開催記録」および「世界環境サミット実行委員会」を明記してください。